

第 71 回講演会〈2023 年 12 月 7 日開催〉

## 多文化共生に向けた取り組みへの再考 ～移民アソシエーションの問題意識

小波津 ホセ

- 講演者……小波津 ホセ  
(NPO 法人日本ペルー共生協会 理事長)
- 司 会……磯田 沙織  
(本学イベロアメリカ言語学科 講師)

### AJAPE という移民アソシエーション

本講演では、移民が設立した組織を移民アソシエーションと紹介した。同組織は同胞移民への支援（適応や情報）や資本（社会関係や文化）を提供する。移民が定住すれば、アソシエーションが設立するとは限らず、その継続性にも問題が指摘される。日本では移民アソシエーションへの認識は高くはなく、研究も進んでいない。日本ペルー共生協会（通称 AJAPE：アハペ）の理事長を務める講演者は同組織の存在とその意義について改めて整理し、移民アソシエーションと定義している。AJAPE は、1999 年に日本でペルー人により設立され、2006 年に東京都より特定非営利活動法人（特定 NPO 法人）の認可を受けた。24 年が経過した今でもペルー人及びペルーにルーツを持つ移民を中心に支援している。

### AJAPE と多文化共生

AJAPE の特徴は、在日ペルー人への支援に特化していることである。同胞に対する AJAPE の

活動は同じ言語を介する、国民性を理解するという利点をもつ。また、ペルーに興味を持つ日本人支援者が日本社会との重要な役割も果たしてきた。そのため、AJAPE は同胞が抱える問題への洞察力に優れていたり、日本人支援者が日本社会との仲介役を担ってきた。また、AJAPE は同胞が人的資本を活用する場、文化を継承する場にもなってきた。現在の AJAPE の成果は特定集団への支援がもたらした結果でもある。しかし、多文化共生が浸透する前後の日本社会の動向は異なる。文化的差異への理解を求める多文化共生は多様な国籍への支援が前提となる活動を支援団体へと求める傾向にある。それは AJAPE が専門でない国籍集団への支援の検討を突き付けられているとも言える。

### 多文化共生の再考

AJAPE はペルー人でない国籍集団への支援は困難である。各移民集団が求める支援はその移民の言語で機械的に通訳しても「理解する」「伝わる」とは必ずしも言えない。なぜなら、各移民集団が成長した環境や文化的背景が異なり、それをまず理解すべきだと AJAPE の経験からは言える。また、日本の出入国管理及び難民認定法により各移民集団の来日背景や時代は異なる。AJAPE が支援する集団は 2 世や 3 世が中心であり、日本語能力が高い場合が多い。彼らに日本語習得を求める必要はなく、逆に、スペイン語やペルー人としてのアイデンティティ維持を検討する段階である。しかし、多文化共生ではこの点は重要視されておらず日本社会での理解が進まない。そのため、移民アソシエーションと多文化共生は相反の関係にあると感じるが、AJAPE は「多」の一端を担うペルー人の育成に務め、今後も日本社会に貢献したいと考える。



小波津 ホセ氏